

鶏肉情勢

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年8月末実施)によると8月の推計実績は処理羽数59,452千羽(前年比102.6%)・処理重量174.2千ト(同101.5%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%下方修正され、処理重量は前月時点の計画値より0.7%下方修正された。処理羽数は前月時点での計画値からわずかに下回る結果となったが、処理重量は前月時点での予測から1,150トほど下回った。産地からの報告では、大規模な熱死や大腸菌の発生はなく、育成は概ね順調だったとのこと。暑さの影響で食餌量が落ち、増体の鈍りがあつたと考えられる。</p> <p>(2) 9月の処理羽数・処理重量はともに前年をわずかに上回る見通しとなっている。地区別で見ると北海道・東北地区と近畿・中国・四国地区で処理重量が前年を下回っているが、他地区では処理羽数・処理重量とも前年を上回っている。宮崎県、鹿児島県では9月の台風14号により、被害が出てしまった農場・工場があるとのこと。今後の台風襲来による生産への影響が懸念される。また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中・二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。高騰する飼料について、政府が504億円の支出を決定したが、それでも生産コストを圧迫する状況は続きそうだ。価格への転嫁が急務となっている。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省9月29日公表の貿易統計によると令和4年8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から1.8千ト増の47.4千トで、国別ではブラジルが1.5千ト増、タイが0.2千ト増となっている。前年同月の実績に対しては0.4千ト増となった。新型コロナウイルスの影響によるタイの人手不足が回復し、生産量も増加傾向にある。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、9月が47.4千ト(前年比104.9%)、10月が51.0千ト(前年比97.8%)となっている。8月実績は前月輸入量より増加し、9月以降も増加が予想される。価格は徐々に下げ基調となっている。要因として、外部冷蔵庫への入庫が困難な状況により一部在庫消化に動き出している業者があることや、決算時に売上げを立てるため、安価な価格で販売をしている業者があるとの話が聞こえている。今後、生産量が増加するに伴い現地での価格も下がっていく予想である。今後の動向に注視したい。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から4.0千ト増の47.8千トで、国別では中国が1.6千ト増、タイが2.2千ト増となった。前年同月の実績に対しては3.7千ト増となった。タイの人手不足が回復し、国内向けにオファーがきているが為替の影響により価格帯は現状の水準であるが、今後は製造量の増加に伴い価格が下がる可能性も考えられる。外食についてはコロナ第7波の中であるが、夏休みに行動制限などが行われなかったこともあり好調となっている、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。今後の動向に注視したい。</p> <p>(3) 財務省が9月29日に公表した貿易統計によると8月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より73.1%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より26.1%上昇した。依然として、世界的なコストアップや為替相場の円安により高値が続いており、ブラジル産の価格が384円/kg(前月比32円高)、タイ産が468円/kg(同8円高)となっている(国別平均価格)。ブラジル産は引き続きコスト高や円安の影響により価格が上昇しているが、国内市場価格は徐々に下がり基調となってきている。タイ産については人手不足の回復により製造量が増加していく見込みであり、価格への影響が考えられる。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年8月の生鮮肉消費(購入)は数量4,012g(前年比93.0%)、金額6,459円(同95.8%)と、数量・金額ともに前年を下回った。鶏肉は数量1,372g(同94.7%)・金額1,309円(同97.6%)・単価95.4円/100g(前年同月+2.9円)と、数量・金額は前年を下回ったものの、単価は上回る結果となった。調理食品が金額12,565円(同103.9%)、外食が13,185円(同130.8%)となっている。猛暑により生鮮肉を持ち運ぶリスクを懸念してか、買い控えた消費者もいたのではないだろうか。外食においては、コロナ第7波の中であるが、3年ぶりに行動制限などが行われなかった夏休みとなり、旅行・帰省・レジャーを楽しんだ人が多かったとみられ、外食に行く機会が増えたと考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年8月の食品売上高は全店ベースで前年比98.6%と前年を下回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同97.7%、既存店ベースは同96.4%となった。また、畜産部門の売上高は約1,202.6億円で全店ベース同97.0%、既存店ベース同95.5%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年緊急事態宣言下からの反動による家庭内食品需要の低迷や、外食機会の増加などにより不調となった。相場高騰が続かなかで、牛肉ではステーキ・焼肉用が比較的好調もそれ以外は動きが悪く、国産・輸入共に不振となっている。豚肉は国産の価格が高騰し不振、鶏肉も輸入価格が上昇し動きが悪かったとのこと。また、ハムなどの加工肉は値上げの影響で伸び悩んだとのこと。感染が収束しないなかで久しぶりに行動制限のない夏休みを迎え、自主的な行動自粛ではなく、帰省や行楽に出掛けた消費者が多かった印象を受ける。9月に入り、第7波は落ち着きをみせており、家庭内食品需要は現状の水準で推移する可能性が高い。一方で10月から、さらに食品の値上げ品目が増加し、買上点数の低下傾向を懸念される。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比99.0%の4.3千トとなった。うち国内品は同109.9%の3.6千トと前年を上回り、輸入品については同64.5%の0.7千トと前年を下回った。</p>
在庫	<p>1. 令和4年8月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産28.5千ト(前年比81.7%・前月差▲0.4千ト)、輸入品121.2千ト(同108.8%・同+0.1千ト)と合計で149.7千ト(同102.3%・同▲0.3千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年10月6日更新)では、8月の出荷量は国産133.4千ト(前年比102.1%・前月差▲1.1千ト)、輸入品47.3千ト(同96.1%・同+3.7千ト)と合計で180.7千ト(同100.5%・同+2.6千ト)となった。9月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から引き合いが強くなり、引き続き在庫は減少していくと予想する。輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように9月はタイのワーカー不足の解消により前年をやや上回る見通しであり、10月は、例年、需要期に向けて輸入量が増加する時期となるものの、米国産は鳥インフルエンザの影響により不安定な輸入状況が続く可能性があることや、ブラジル産は前年の輸入量が多かったことから前年をわずかに下回る見通しである。在庫状況については9月は前年並み、10月は前年を上回ると予測する。</p>
相場	<p>1. 令和4年9月動向</p> <p>(1) 令和4年9月の月平均相場は、モモ肉667円/kg(前月差+18円)・ムネ肉364円/kg(同+10円)正肉合計で1,031円/2kgと前月を28円上回り、前年同月を135円上回った。モモ肉相場は月初656円、月末は683円となった(昨年は月初571円、月末587円で16円の上げ)。昨年の相場より大幅に上回り、前月に引き続き正肉価格が1,000円を超えた。要因としては依然として相場高騰する畜産の中では比較的安価な鶏肉に消費者の需要があり、生産状況も夏場の暑さの影響を受け増体の鈍り・育成率の悪化、九州での台風の影響により供給量が減少し需給が締まったと思われる。ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、前月から10円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫量自体が薄く、国産ムネ肉を集荷することは非常に厳しい。輸入品価格の高騰・供給量の減少により、国産凍結品の品薄状況は続き、価格も高水準で推移していくと思われる。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 10月の生産量は、前年より若干下回る計画である。しかし、台風の影響、9/29今季最初の鳥インフルエンザの発生が野鳥で報告され各産地への拡大が懸念される。需要面では、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(10月)」によると、10月についても気温は全国的に高く、平年並みか平年よりも高く、曇りや雨の日が多い予測となっている。売り場も秋冬仕様に変わっていく鶏肉は順調に推移していくと思われる。行政による行動制限が行われないため、外食産業については回復傾向にあると思われる。輸入品の高騰により、一部国産への切り替えも見られ、タイトな状況が続き価格も高水準で推移するものと思われる。以上から、生鮮品の販売については、凍結品での需要が依然として高く、供給面でも不足が予想されるのでモモ肉相場はやや上げの月平均680円、ムネ肉相場もタイトであり、月平均370円と予測する。</p> <p>(2) 直近の販売状況は、暑さも和らぎ、売り場の切り替え時期でもあり、生鮮品については順調に推移している。9月の九州での台風の影響もあり供給量は低下しており不足感が出てきた。凍結品は依然として品薄状況は続き、高水準の価格で推移している。量販店においては畜産価格が高騰していることから特売を打ちづらく、また10月より更なる食品の値上げ、最低賃金の引き上げ、電気料金の値上げ等で利益の確保に苦慮していると聞かれる。様々な食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば安価であり、価格も安定し、利益が確保できる鶏肉に需要がシフトしていくと考えられ。また、外食産業も回復傾向にあることから、鶏肉の需給はタイトに推移していくと思われる。</p>

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R4年8月推計実績		R4年9月計画		R4年10月計画		R4年11月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	66,264	101.2%	66,966	101.9%	68,756	97.7%	63,452	100.4%
処理羽数	59,452	102.6%	60,369	101.5%	63,026	99.7%	63,161	100.3%
処理重量	174.2	101.5%	177.9	100.1%	188.6	99.4%	190.9	99.0%

※参考資料: 鶏全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年3月	45.1	55.6	81.1	47.8	43.9	108.7	92.9	99.5	93.3	48.6	51.4
R4年4月	43.6	50.2	86.9	44.1	45.8	96.3	87.7	96.0	91.4	49.7	50.3
R4年5月	42.5	46.2	91.9	42.1	36.0	117.1	84.6	82.2	102.9	50.2	49.8
R4年6月	52.2	42.8	121.9	46.2	40.5	114.2	98.4	83.3	118.1	53.0	47.0
R4年7月	45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0
R4年8月	47.4	46.9	100.9	47.8	44.1	108.5	95.2	91.0	104.6	49.8	50.2

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年3月	1,550	1,528	101.4	1,439	1,406	102.3
R4年4月	1,512	1,556	97.2	1,368	1,384	98.8
R4年5月	1,476	1,527	96.7	1,403	1,426	98.4
R4年6月	1,433	1,461	98.1	1,375	1,328	103.5
R4年7月	1,439	1,440	99.9	1,345	1,265	106.3
R4年8月	1,372	1,449	94.7	1,309	1,341	97.6

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年3月	32.5	28.8	112.9	125.2	135.0	92.7	157.7	163.8	96.2
R4年4月	31.3	31.7	99.0	116.3	129.8	89.6	147.6	161.4	91.5
R4年5月	31.2	32.8	95.1	115.7	129.4	89.4	146.9	162.2	90.6
R4年6月	30.5	34.1	89.4	119.1	121.7	97.8	149.6	155.8	96.0
R4年7月	28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2
R4年8月	28.5	34.9	81.7	121.2	111.4	108.8	149.7	146.3	102.3

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年5月	624	659	94.7	321	303	105.9	945	962	98.2
R4年6月	624	631	98.9	326	296	110.1	950	927	102.5
R4年7月	637	600	106.2	340	301	113.0	977	901	108.4
R4年8月	649	583	111.3	354	308	114.9	1,003	891	112.6
R4年9月	667	580	115.0	364	316	115.2	1,031	896	115.1
R4年10月	(680)	603	112.8	(370)	328	112.8	(1,050)	931	112.7
R4年11月	(690)	619	111.5	(380)	333	114.1	(1,070)	952	109.6

※()は見直し